

東の飛鳥プロジェクト

－「東の飛鳥」による歴史文化を活かしたまちづくり事業－

1. 事業の経緯

本市は、しもつけ古墳群や下野薬師寺跡など東国の飛鳥時代の変遷を表す重要な文化財が存在するという歴史的特性を有します。市名である「しもつけ」は、日本が誕生した飛鳥時代に下野国の中心として栄えたことに由来し、古来より災害が少なく住みやすい地域であったことが、これまでに起こってきた発掘調査からも明らかになっています。

こうした特性を「東の飛鳥」と名付け、文化財を観光や教育の資源として総合的に活用した取り組みとして、令和3年度から「東の飛鳥」による歴史文化を活かしたまちづくり事業を実施しています。

2. 「東の飛鳥」による歴史文化を活かしたまちづくり事業

事業の実施に当たっては、令和3年度より地域総合整備財団（通称 ふるさと財団）の補助事業（補助率2/3）である「地域再生マネージャー事業」を導入しています。

事業実施にあたっては、地域づくりの専門家である「地域再生マネージャー」によるコンサルティングを通じて、地域人材や地域資源の整理・再発掘、ターゲットを見据えた地域資源の活用、情報発信の強化やPR方法を確立し、市民との連携による持続可能な仕組みや体制づくりを目指しています。

(1) 令和3年度の取組

① シールラリー

市内の文化財や公園の周遊するシールラリーを実施。シールの配布ポイントは、資料館、道の駅、ふれあい館、観光協会、10picnic tables、グリムの館、スポーツ交流館に依頼。シールのコンプリートで東の飛鳥オリジナルノートを配布した結果、240名達成（参加無料）。



シールラリーパンフレット（上）と台紙・参加賞のノート

②文化財をテーマとした食のコンテスト

SNS を通じて募集し、応募総数は 40 件となりました。専門家（TBC 講師・飲食店経営者）の審査によってハッピー・ヘルシー・アイデアの各賞 2 点を選出。レシピ入賞作品は市の観光協会等を通じて飲食店での商品化を目指していきます。



グッドアイデア賞

(2) 令和 4 年度 of 取組

① 下野市のキャッチコピーづくりワークショップ

7 月 11 日（月）、9 月 13 日（火）に市民と市の若手職員によるワークショップを開催した。参加者の意見を基にプロのコピーライターの監修によって、ブランディングのためのキャッチコピーの素案が完成。

案) 1500 年前からくらしウツテツケしもつけ



市民ワークショップのようす

②東の飛鳥ファッションコンテスト

機織形埴輪や結城紬など本市の歴史文化に着想を得た公園ファッションのフォトコンテストとファッションショーを開催しました。

フォトコンテストは、7月～8月にSNSで募集。応募総数25点の中からキッズパーク賞、プレイパーク賞、教育長賞、親子コーデ賞を決定しました。

8月28日（日）開催のしもつけ燈桜会のオープニングイベントとしてコンテスト応募者によるファッションショーとコンテストの表彰式を開催しました。



ファッションショーの参加者

③東の飛鳥シールラリー

令和4年度は、市内の文化財や公園と併せて、市内の飲食店の利用促進を図るため、12月末から2月中旬にシールラリーを実施。

シールの配布ポイントとして飲食店12店舗にも協力をいただきました。

今回は飲食店で買い物をするともらえる赤いシール4枚以上で、オリジナルトートバック、公共施設で配布の青いシールと併せて8枚以上でオリジナルノートの配布を行いました。

コンプリートは99名で、全員がトートバックの配布対象者となりました。

《シール配布箇所》

コッペパン専門店 JOURNEY、たかはし肉屋、マツガミネ
コーヒービルディング 103 グリムの森店

高砂食堂、SANDO×SANDO、野村牧場直売所自治医大店、
ひよりキッチン、吉田村 VILLAGE

Fall of the leaf、菓子処金子、おかずのイケダ、古民家カ
フェ 10picnic tables

しもつけ風土記の丘資料館、オアシスポッポ館、下野薬師
寺歴史館、石橋公民館



④市内の史跡公園等の活用イベントの実施

- ・しもつけ燈桜会（8/27・8/28）、エゴマ灯明の会（9/10）

8月末～9月上旬に集中して開催・周知を図ったことで、来場者数がコロナ前よりも大幅増加。来場者からは、「癒される」「こんなイベントがあるのを知らなかった」などの声があった。また、会場設営に参加したボランティアからは「来年も参加したい」などの声があった。

令和4年度の来場者数

しもつけ燈桜会 2日間 10,000人（令和元年時は3日間で7500人）

エゴマ灯明の会 500人（令和元年時は200人）



燈桜会のようす



燈明の会のようす



燈明の会のボランティア

- ・土器づくりワークショップの実施

1月14日（土）にしもつけ風土記の丘資料館で土器づくりを行い、2月12日（日）に三王山ふれあい公園のキャンプファイヤー場で土器焼きを実施しました。参加者は小学生と保護者17名。



土器づくりを終えて



土器焼きを終えて

・色紙作りワークショップの実施

しもつけ風土記の丘資料館で、自分で塗った色紙を張り付けたオリジナルフォトフレームを作成し、天平の丘公園の風景をスマホで撮影するワークショップを実施しました。参加者は小学生と保護者 24 名。



色紙作りワークショップの参加者

(3) 今後の取組

令和4年度の取組によって、「市の魅力である「歴史的価値＝東の飛鳥」を市民にわかりやすく翻訳するためキャッチコピーの素案が完成しました。令和5年度は、キャッチコピーの活用に向け、シティプロモーションの具体的な取り組みと市民の巻き込みを図るための仕組みづくり、関係人口の創出に向けた具体的なPR活動を実施してまいります。

東の飛鳥シールラリーについては、協力店舗の増加による観光収益の増強とアフターコロナに向けた観光集客の強化及び関係人口の創出のため県外へのPRについても検討を進めてまいります。

コロナ禍により中止していた下野国分寺跡のしもつけ燈桜会、下野薬師寺跡のエゴマ灯明の会についても、周知方法や開催時期を工夫し、相乗的に集客を図った結果、コロナ前よりも多くの方に来場していただくことができました。今後は、アフターコロナに向けた新たな目玉イベントとしてしもつけ燈桜会・エゴマ灯明の会の磨き上げや来場者がイベントに参加する仕組みづくりによって、交流人口の増加を促し、ボランティアなど関係人口の増加へとつなげてまいります。